



23のコミュニティ組織

組織の強化と再編 地域課題へ協働の期待

コミュニティ組織と地区社会福祉協議会との一体化が合意に至り、最終調整に入っています。また、懸案であった単会の組織強化策の検討にも着手、増大する地域課題への対応には、行政の各課との協働によるまちづくりが期待されます。

21年度から地区社協と一体化 地域福祉事業がより前進

コミュニティ組織と地区社会福祉協議会との一体化（統合）について、平成18年8月17日に、日立市社会福祉協議会から日立市コミュニティ推進協議会に申し入れがあり、以来、双方が丁寧に協議を重ねてきました。ようやく合意するに至り、平成21年度コミュニティ単会の総会時から、統一的な運営をすることが決定し、現在、詳細について最終調整をしています。

これまで市社協による地区社協のリーダーや、日立市連合民生委員児童委員協議会などに対する説明会も実施され、理解と協力が得られるよう対応がされてきました。

コミュニティと地区社協の組織が一つになることによって、地域住民にわかりやすい組織になるほか、人的資源や予算が有効に活用できるなどにより、当初の目的でもある、各コミュニティにおける地域福祉事業の継続と、より一層の前進が期待されることとなります。



コミュニティが子育て支援

市社協とコミ推協の合意事項

◆コミュニティ単会で、地域福祉事業を実施する組織の名称は、福祉委員会、福祉局、事業ごとの専門部、地区社協など、コミュニティ単会の事情に応じたものとする。

◆コミュニティ単会の会則に「日立市社会福祉協議会が定める地区社会福祉協議会の機能を有する組織」であることを規定すること。

◆交流センターに掲示している「地区社会福祉協議会」の看板は、コミュニティ単会が地区社会福祉協議会の機能を引き継いだことへの理解を得て、過渡期の混乱を避けるため継続して掲示すること。

◆交付金の交付先はコミュニティ単会会長とし、交付金の用途は地域福祉事業に要する費用に限定すること。

◆経理はコミュニティ単会の他の経費とは区分し、事業計画・予算、事業報告・決算は社協会長へ提出すること。

◆その他、寄附金や社協の役員・スタッフの取り扱い、個人情報管理の方針などについて合意しました。

コミュニティ組織強化 単会はできることから取り組む

少子・高齢社会や核家族化が進行するなかで、地域福祉や防犯・防災、環境など地域課題の解決には、地域の連帯意識の醸成は重要で、地域の人たちが協力し、住民総ぐるみで活動することがますます必要になってきました。

日立市コミュニティ推進協議会は平成20年度事業の基本方針に、小さなまとまりである自治会や町内会などの結成や、加入促進の方策などの検討をしながら、組織強化を進めることを掲げています。

推進協議会は小委員会を設け、この課題への取り組みを検討してきました。現状分析をしながら組織強化に向けアイデアを出し合い、コミュニティ推進協議会全体で取り組む

事項、単会で取り組むことができる事例などを整理しています。今年1月の会長会議に小委員会から中間報告し、引き続き継続して強化策につ



課題をだしあい解決策を

いて検討を重ねることになりました。

また、単会ではできることから取り組んでいくことを確認しました。

■提案された事項

- ①町内会の役員の負担感を軽減する。
- ②組織化のメリットをPRする。
- ③つながりをつくるための活動に転換する。
- ④町内会未加入者や未組織地域への働きかけ。
- ⑤転入者への説明資料やチラシの作成・配布。

諏訪・中里地区の公共交通試行運行 続けてほしいの声

平成20年10月から3か月にわたり、地域性のある諏訪地区と中里地区で、将来の地域公共交通システムを考えるため、地域住民、事業者、行政などが協働して、バスやタクシーでの特色ある試行運行が実施されました。住民からも多くの声が寄せられ継続施行運行や本格運行への準備が始まります。

諏訪地区は、山側の高台にある新興団地も時代と共に急速に高齢化が進み、路線バスの利用者が減少し、将来、既存路線バスの減便や廃止に追い込まれる可能性があります。

これらを回避し生活交通を確保するため、行政の支援のもと地域住民とバス事業者が協定を締結して協働で行う「パートナーシップ協定方式」により、既存路線バスに接続する地域内循環バスを導入し、試行運行を実施しました。

一方、山間部に広がる中里地区は、高齢化率が約40%という超高齢化時代を迎え、路線バスを利用できる範囲が限定的であり、住民の約3割の方が車の運転をしていません。

そのため、高齢者や運転免許を持たない人の「生活の足」が、確保できない状況となっています。

日立市社会福祉協議会では、中里学区コミュニティ推進会と協力して、「予約運行（デマンド運行）」による乗り合いタクシーの試行運行を実施しました。

【担当課からひとこと】

今後、更なる高齢化の進展により生活交通を必要とする方々の増加が見込まれる一方で、利用者の減少によるバス路線の廃止・減便も危惧されるなど、市内各地区における生活交通の確保は、重要な課題であります。今後も地区の状況や意向を踏まえながら学区コミュニティなど、地域とともに「地域の足」の確保を進めていきます。

都市政策課

■利用者の声

＜諏訪地区＞

- ・常陸多賀駅まで運行してほしい
- ・夕方も運行してほしい

なかさと号



ふれあい諏訪号



- ・運行ルートが分りにくい
- ・時計回りのみの運行では不便
- ・高齢者には良い試みだ
- ・団地内の自由乗降は非常に助かる

■試行運行状況

地区	諏訪地区	中里地区
試行運行期間	平成20年10月7日～12月26日 (土・日曜日、祝日は運休)	平成20年10月1日～12月26日 (土・日曜日、祝日は運休)
愛称	諏訪循環バス「ふれあい諏訪号」	中里助け合いタクシー「なかさと号」
車種	小型ノンステップバス	ワゴン車
運行区域	諏訪地域内から6号国道へ循環	中里地区全域(指定場所～目的地まで)
利用方法	各停留所で乗降 (小咲台、潮見台は自由乗降)	電話予約制
利用料金	1日乗車券 300円 1回乗車 200円	1外出当たり 300円 (自宅から自宅へ戻るまで)
期間中の利用状況	乗車人数 706人	利用者数 703人 総乗車人数 1453人

＜中里地区＞

- ・日立駅や常陸太田駅まで運行希望
- ・土曜や日曜、祝日等も運行を希望
- ・イベント開催時（体育祭や文化祭など）も運行してほしい
- ・さららの里等の周回は出来ないか（65歳以上入園無料なので）
- ・朝夕の運行時間を延長してほしい
- ・試行期間が終了した後が不安（便利だった生活の足が無くなる、継続してほしい）。

■今後の取り組みと課題

＜諏訪地区＞

- ・試行運行結果分析と検証（住民アンケート調査、地区懇談会の実施）
- ・シンポジウムの開催
- ・次年度試行運行の継続

＜中里地区＞

- ・試行運行のアンケート調査
- ・試行運行期間の延長（平成21年1月13日～3月31日が決定）
- ・次年度本格運行に向けての準備（住民への説明会、NPOの設立）



地デジ詐欺にご注意！

テレビ放送のデジタル化に便乗した詐欺が全国で発生しております。身におぼえない工事や代金請求には、ご注意ください。



「地上デジタル放送接続料」「放送切り替え助成金受け取りのための手数料」

デジタル化でこのような費用の支払を求められることはありません。

このような請求を受けたときは、支払う前に相談してください。

【相談先】総務省地上デジタルテレビジョン放送受信相談センター 電話 03-43344-1111
日立市消費生活センター 電話 33-3129 | P電話 050-5528-4916
日立警察署 電話 22-0110

市民が協力して 環境にやさしいまちづくり

大切な地球環境と資源を守るため、日立市では環境に配慮した様々な事業が積極的に進められています。地球温暖化防止やCO₂排出量の大幅削減など市民一人ひとりが意識して環境にやさしい生活を心がけることが重要です。

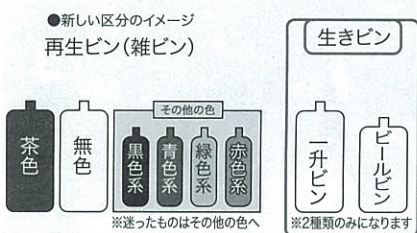
レジ袋が有料に！

次世代により良い地球環境を引き継ぐために、業者（スーパー等）や市民団体（ごみ減量キャンペーン実行委員会）と日立市の三者が協定を締結して、レジ袋の有料化が2月1日からスタートしました。買い物はマイバックを持参する習慣をつけたいものです。このレジ袋の収益金は環境教育事業支援に役立てられます。

ビン類の出し方が変わります

平成9年4月から施行された「容器包装リサイクル法」では、再生ビンを排出する際は3色に分別することが求められています。

このため十王地区では18年度か



ら実施し、平成20年度は豊浦・日高学区がモデル地区として実施しています。21年度からは田尻・滑川・宮田・中小路・助川・会瀬・成沢・油縄子・大久保・塙山・大沼・金沢・水木学区で実施、22年度から中里・仲町・諏訪・河原子・大みか・久慈学区と坂下地区が実施する予定です。

これまでは再生資源として一括して回収袋に入れていた「ビン」を、3色に分けて出します。①無色、②茶色、③その他の色、に分け、それぞれの回収袋に入れます。回収袋にはビンの色が印刷されて判り易くなっています。また、生きビンは二種類のみで、①一升ビン、②ビールビン、となります。

実施予定の学区での説明会が順次実施されています。

プラスチック製容器包装の拠点回収

ペットボトル以外のプラスチック製容器包装の拠点回収実験が行われています。十王・豊浦・日高・成沢・塙山交流センターをはじめ、市

役所本庁、多賀・南部支所、セイブ十王店、イトーヨーカドー日立店、サンユーストア池の川店、パルシステム茨城金沢店、カスミ東大沼店で実施しています。

「プラ」のマークが付いている菓子やパンの空き袋、ペットボトルのラベル、シャンプーやカップ麺の空き容器、卵のパックなど多くのものが対象になります。



廃食用油の拠点回収実験

家庭から排出される使用済みのてんぷら油などの廃食用油を有効利用するため、公共施設をはじめ、水木・金沢・塙山・助川・油縄子交流センターでの拠点回収実験が始まりました。空のペットボトルなどに入れて拠点に設置された回収ボックスに置くことになっています。

回収した廃油は環境と健康にやさしいバイオディーゼル燃料として公用車などの燃料に利用されています。

十王地区コミュニティ推進会 ～発足からまもなく3年経過～

コミュニティってなに？町内会との関係はどうなるの？などと、多くの不安と期待が住民から出された地域説明会から始まり、平成18年4月の設立総会からまもなく3年が経過します。

発足に向けては、組織としてのかたちをつくり上げることが最初の活動でした。長年にわたって行われてきた地元事業は、その土地の文化でもあります。事業継続を前提に、初年度は組織と事業分担に関する協議



に時間が割かれ、専門部の手探りでの努力が続きました。

また、海岸から山間地までの広域性、農家が多い地区や団地など16支部の特性を考慮する話し合いは支部中心に常に検討されました。

コミュニティとして2年が経過し、事業の役割分担も徐々に定着化して来ています。十王まつりは8千人で賑わい、十王地区運動会は第30回を皆で祝い楽しみました。その他、福祉まつりや防災訓練が住民の手で進められています。

平成20年度は、地域のことは地域でという共通認識をどう深めるのか、経験者に頼るところの大きい事業の中で、新しい人材の育成、地域性を生かした事業の展開など、安全・安心なまちづくりを目指して、地域活動の推進を図っていきます。



単会リレー訪問 特色ある活動を紹介(Ⅳ)

日立市には概ね小学校区をエリアに活動しているコミュニティ単会が23あります。それぞれの単会では地域福祉、防犯・防災、青少年育成、子育て支援、環境、生涯学習などをテーマに、多くの住民と一緒に地域の特徴を活かしたまちづくりを続けています。今回は日高学区市民自治会と水木学区コミュニティ推進会の活動を紹介します。

新「まちぶらん」で活動の確かな前進を計る

日高学区市民自治会

日立市日高支所に併設する日高交流センターで、日高学区市民自治会の志賀勝弘会長の話を伺いました。

日高学区では、市民自治会の実施する「おんもさ祭り」や「3世代スポレク祭」「ふれあい鳥追い祭り」などのイベントが、準備から片付け

祭の受け入れも多く、今年度は水戸市と栃木市のコミュニティ役員の視察を受け、共に学びあいました。

現在の活動は、平成13年に作成したコミュニティプラン「まちぶらん日高」に基づいて実施されていますが、現在は新しい地域活動の姿を求めて、新たな「まちぶらん」作りに取り組んでいます。

新プランでは、5年後ぐらいまで

に達成を目指す事業を130件ほどあげ、その実現に向けて組織体制の見直しに入っています。

志賀会長は、お年寄りでも気兼ねなく参加できる町内会のあり方、若い世代も企画や活動に参加できるコミュニティのあり方などを探りながら、地域が元気であるために、元気印を掲げ、先頭に立って頑張りたいと抱負を語っていました。



ふれあい鳥追い祭り

まで多くの住民の手作業で支えられています。人の輪が広がり、住民の仲間意識や連帯が深まり、広く住民の参加を促し、盛大に催されています。今回実施した小・中学生のアンケート調査では、多くの子どもたちがこれらのイベントを「日高の自慢」と答えています。

住民総参加型のふれあいイベントで培われる地域の連帯が、福祉や安心安全、環境、青少年健全育成などの事業を展開する原動力となり、様々なコミュニティ事業が多くの住民の参加で実施されています。

活動拠点の交流センターには地域の人々が訪れ、様々な意見や要望が集まります。これらの活動は地域内外から注目されています。近年は視

住民の意を汲んだ取り組み

水木学区コミュニティ推進会

水木交流センターを訪ね、会長の高橋幸隆さん、副会長の古川悦子さんに話を伺いました。

水木学区コミュニティ推進会は、「ふれあい、助けあい、語りあい、認めあい」を基本方針として、学区内3500世帯を7ブロックに分けて活動を進めています。

水木学区の最近取り組んだ事業のなかには、クリスマスイブにサンタクロースが家庭を訪問し、子どもたちにプレゼントを届けるという企画があります。事前に希望する家庭を募集して訪問するという事業で、昨年は5人のサンタクロースが分担して53件の家庭を訪問しました。この企画は大変好評で、申し込みが殺到したそうです。

また、恒例の「ふれあいレクリエーション大会」は、20回目の記念大会となり、子どもからお年寄りまで約1400名が参加して盛大に開



ふれあいレクリエーション大会

催されました。会場は和気あいあいとした雰囲気にあふれ、好評の大会になったようです。

また、子育て支援である「おもちゃライブラリー」では、交流センター空地で育てた、さつまいもやじゃがいも掘りなどを行っています。親子で参加するこの事業で、子どもたちが楽しい思い出をつくりました。

最後に、平成20年度に会長に就任した高橋さんは、今後の課題として、「住民の意を汲んだ事業の取り組みをする」ことを挙げ、常に住民の言葉に耳を傾けながら、地域との連携を保ち続けていきたいと話していました。